

サブシステムの再構成(16) (HP 収載)

1. はじめに

前報(15)に引き続き、TANNOY III LZ の駆動アンプのチェックを実施します。

2. サブシステムの再構成の内容

前報(15)では、サブシステムの再構成として TANNOY III LZ と Pilotone Tungsol 5881pp アンプを加えました。今回、TANNOY III LZ の駆動アンプを替えてみます。

前報(15)の Pilotone Tungsol 5881pp アンプに替えて、Langivin 6V6pp、PX-25 シングルおよび Rogers Cadet III を使用してみます。

アンプの結線替えをしながら下記の音源を再生しました。

アナログ盤

Deutsche Grammophon 483-6927/6928/6929

J.S.Bach Sonatas & Partitas

Nathan Milstein (Vn)

Philips 25-PC35-36

J.S.Bach ヴァイオリンとチェンバロのためのソナタ集

アルトゥール・グリュミヨー(ヴァイオリン)

クリスティーン・ジャコッティ(チェンバロ)

STAGE+

バッハ 無伴奏ヴァイオリンソナタ・パルティータ

シュロモ・ミンツ(ヴァイオリン)

バッハ Goldberg 変奏曲

ラン・ラン(ピアノ)

シューベルト ピアノ 5 重奏曲「鱒」

リサ・パテイアシュブビリ(ヴァイオリン)他

3. サブシステムの再構成の試聴結果

Langivin 6V6pp では、アナログ盤の J.S.Bach の Sonatas & Partitas は、ミルシュテインの艶のあるヴァイオリンを聴かせてくれますが、前報(15)の Pilotone Tungsol 5881pp よりソフトな音色で、ゲインは Pilotone Tungsol 5881pp より小さめです。

J.S.Bach のヴァイオリンとチェンバロのためのソナタ集は、これもグリュミヨーの艶のあるヴァイオリンの音色とジャコッティチェンバロの繊細感は、前報(15)の **Pilotone Tungsol 5881pp** と同様ですが、もう少し落ち着いた音で、チェンバロの切れ込みは弱くなります。

STAGE+のバッハの無伴奏ヴァイオリンソナタ・パルティータは、前報(15)の **Pilotone Tungsol 5881pp** と同様に艶のある魅力的な音を聴かせてくれますが、**Pilotone Tungsol 5881pp** に比べてしっとり感があります。

バッハの **Goldberg** 変奏曲は、**Pilotone Tungsol 5881pp** に比べて打鍵の力強さは出ていますが、鋭さは後退しています。

シューベルトのピアノ 5 重奏曲「鱒」は、バランスよく、落ち着いた弦の表情が見えています。

PX-25 シングルでは、アナログ盤の **J.S.Bach** の **Sonatas & Partitas** は、艶もありながら切れ込みもよく、組み合わせからくると思われるレトロな印象は感じられません。

J.S.Bach のヴァイオリンとチェンバロのためのソナタ集は、グリュミヨーの艶のあるヴァイオリンの音色とジャコッティチェンバロの繊細感が表現されており、郷愁をそそりながらも鮮烈な音も表現できています。

STAGE+のバッハの無伴奏ヴァイオリンソナタ・パルティータは、かつてオーディオ仲間からセピア色の音と評されたことがありますが、3 極管シングルらしい郷愁をそそる風情でありながら、切れ込みの良い鮮烈な音も表現できているくらいです。

バッハの **Goldberg** 変奏曲は、打鍵の鋭さはそれほどでもありませんが、響きの豊かさや力強さは際立ちます。

シューベルトのピアノ 5 重奏曲「鱒」は、予想よりバランスよく、弦の艶もピアノの響きもよく表現されています。

Rogers Cadet IIIでは、アナログ盤の **J.S.Bach** の **Sonatas & Partitas** は、バランスよく、ほどほどの艶もありながら切れ込みもよい感じです。

J.S.Bach のヴァイオリンとチェンバロのためのソナタ集は、これもバランスよく、ほどほどの艶もありながら切れ込みもある感じです。

STAGE+のバッハの無伴奏ヴァイオリンソナタ・パルティータは、この場合もバランスよく、ほどほどの艶もありながら切れ込みもある感じです。

バッハの **Goldberg** 変奏曲は、この場合もバランスよく、打鍵の切れ込みも響きもあります。

シューベルトのピアノ 5 重奏曲「鱒」は、弦の艶もピアノの響きもバランスがとれています。

以上、前報(15)と併せて整理しますと、全般的に **TANNOY III LZ** は前報(11)から前

報(14)の AXIOM80 に比べて鳴らしやすい感じで、アンプの選択に融通が利く感じ
です。アンプとの適性に関していえば、Pilotone Tungsol 5881pp はエッジも効い
ており力強く、Langivin 6V6pp はソフトタッチで、PX-25 シングルは独特の個性
的な音になり、Rogers Cadet IIIはバランスが取れた中庸の印象です。さらにムジ
カライザーからスピーカーアキュライザーに替えると、どのような変容を遂げるか
が楽しみです。

4. まとめ

TANNOY III LZ の駆動アンプを替えてみましたところ、それぞれのアンプの特徴が
分りました。

以上